新春 町長インタビュー

今年が１期目最後の年となる岡本町政。
３年間を振り返るとともに
今年1年の抱負について
インタビューしました。

2019 年、飛躍につながる総仕上げを—。

—新年あけましておめでとうございます。１期目最後の年ですが、３年間を振り返っての感想をお願いします。

岡本町長　町民の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

３年間はあっという間でしたが、どうすれば松前町がよくなるか、元気になるかを一生懸命考えて実行してきました。

「誇れるライフタウン」を目指して行った5つのまちづくりを振り返ると、「安心して子どもを生み、育てることができるまちづくり」については一定の成果を上げることができたと感じています。

平成29年1月から「医療費の無償化」を実施しました。中学校卒業までの子どもたちの医療費が無料になり、皆さんに喜んでいただいています。また放課後児童クラブの施設整備については、北伊予地区に続き岡田地区も来年度中に完成のめどが立ちました。少しでも子どもを生み育てやすい環境づくりができたのではないかと感じています。

「にぎわいと活力のあるまちづくり」については、町の特産「はだか麦」を使ったおやつを開発する「芽吹きと実りのはだか麦プロジェクト」、若手農業者と町が農業政策を考える「若手農業者検討会議」や町の魅力を町内外に発信する「イメージアップ戦略」などの新しい取り組みを行いました。これらを通して、にぎわいと活力の方向へ前進していると思っています。

「快適で、文化的で、おしゃれなまちづくり」については、義農橋に麦をデザインしたパネルを設置するなど町内におしゃれポイントをつくり出しました。これは今後も続けていきたいと思います。また、本年度完成した町のイメージソング「まさき色の風」の踊りができたことも町の文化が向上したといえるかもしれません。

最後に忘れてはいけないのがまさき町夏祭りで行った「はんぎり甲子園」。本年度は県内の高校12校から22チームが参加してくれ、大いに盛り上がりました。

課題として残っているのは「安全・安心なまちづくり」と「みんなで支えあうまちづくり」です。

29年の台風18号では、重信川の水位が戦後最高の5.65メートルを記録し、町内の一部地域に避難勧告を発令する事態となりました。町の防災体制に課題が見つかる中で、それに対応する新しい体制を築く必要があります。

また、少子高齢社会の中で一人一人が自分らしい暮らしを送るための地域包括ケアシステムを構築し、地域力を向上させたいと考えています。

—今年特に力を入れる施策を教えてください。

まずは、町内全ての小中学校にエアコンを設置することです。昨年の夏は、災害級の暑さ、命に関わる暑さといわれるほどの厳しいものでした。熱中症で命を落とす危険性がある中で、何より子どもたちの命を守らなければなりません。

エアコン設置を決めたきっかけは、他市で開催された「子ども会議」での児童の発言でした。新聞に掲載されていた、「市長室にはエアコンがあるのに何で学校にはないのですか」という質問を読んで、松前町の子どもたちも同じように思っているのかと—。これはどうしても設置しなければならないと決意しました。その後保護者からの署名があったり、幸いにも国の補助制度などができたりして設置できる環境が整いました。

次にホッケーのまちづくりを推進することです。2月に男子ホッケーの日本代表チーム「サムライジャパン」が来町し、松前町国体記念ホッケー公園で強化合宿を行うことが決まりました。また、昨年に引き続き、3月には中四国九州の中学生チームを誘致した交流大会、「まさきカップ」を行う予定です。ほかにも東京オリンピックに出場する外国人チームなどの合宿誘致を検討しています。

次にプロモーションビデオの作成と活用です。現在作成中のビデオは、松前の名所、見所や史跡の四季折々の風景を取り入れた美しい映像になる予定です。「まさき色の風」に合わせ、ドローンを使った立体的で迫力のある映像に仕上がることを期待しています。皆さんも、松前の魅力あふれる映像を楽しみにしていてください。

またこのビデオには、町内の子どもたちが「まさき色の風」を歌う映像も収録される予定です。自分の映っている映像が少しでも映し出されることで、子どもたちも関心を持ち松前町に対する愛着が湧くのではないかと思っています。非常に楽しみです。

最後に話しておきたいのが「義農大賞」の創設です。これは、自分のことよりも人のためにと活動している義農精神を持った人を顕彰するものです。義農作兵衛を通した松前町のイメージアップにもつながるので、全国に発信していくイベントに育てたいと考えています。分かりやすく例えると「ノーベル賞」の義農精神版みたいなものです。いきなり全国レベルでの実施は難しいですが、将来的に対象を広げられるような展開ができたらいいなと思っています。

—今までの話を含めて、今年1年をどんな年にしたいか教えてください。

「飛躍につながる総仕上げの年」にしたいと思います。

３年間やってきたこと、今やっている事業を一定の形に仕上げ、松前町のさらなる飛躍に備えるのが最後の１年かなと思っています。

例えば、「芽吹きと実りのはだか麦プロジェクト」では「はだかむぎゅ」というブランドのお菓子ができているので、これを商品化して販売したい。また、やり残していることでいうと、先ほども申し上げた義農大賞をつくる。29年の台風18号を踏まえた防災体制を検証して新しい体制をつくる、イメージアップ戦略最後のプロモーションビデオを使って効果的な魅力発信をしていく、これらの総仕上げをしなければならないと思っています。

—最後に、町民の皆さんへメッセージをお願いします。

新しい年が明けました。任期最後の1年、とにかく松前町のことを一生懸命考えて総仕上げをしていきたいと思っています。大それたことは考えていません。松前町のためにどんなことをしたらいいか、何が1番大切なのかを皆さんと一緒に考えながら町政に当たります。

皆さん、本年もよろしくお願いいたします。

今年、町が取り組む重点施策を３つお伝えします。

施策 1　小中学校 空調設備設置

2019 年 7 月の稼動を目指し、町内全てのの小中学校の普通教室と特別教室などにエアコンを設置する予定です。

近年の厳しい暑さの中、子どもたちは過酷な環境下で学習しています。特に昨年の7月は、平年より気温が 3 度以上高い記録的な暑さが続き、命に関わる災害級の危険な暑さとも報じられました。

子どもたちの命を守り、集中して学習に取り組めるよう、安全で安心な教育環境を整えていきます。

Interview

岡田中学校２年生

（左から）
藤田彩愛（あやな）さん
阿曽沼尋斗（ひろと）さん
水本陽菜（ひな）さん
永岡汰一（たいち）さん
渡部明歩（あきほ）さん

昨年の夏はとても暑くて、流れる汗を拭いながら授業を受けました。暑いと集中力も切れるし、体調不良になる生徒もいて大変です。テレビのニュースなどで松山の小中学校ではエアコンが整備されると聞いて、「なんで松前町は扇風機しかないんだろう」と思っていました。

教室にエアコンが設置されると聞いてとてもうれしいです。今年の夏は気持ちよく授業を受けることができそうなので、集中して勉強ができ、成績も上がるかもしれません。

施策 2　ホッケーのまちづくり

ホッケーの聖地まさきを目指し、国内外の強豪チームを誘致するなどホッケーのまちづくりを進めていきます。

2月には、男子ホッケー日本代表「サムライジャパン」が来町し、強化合宿を行うことが決まりました。将来的には、東京オリンピックに出場する外国人チームの合宿誘致をするなどして、ホッケーの普及啓発と技術の向上を目指します。

また、中四国九州の中学生を対象とした大会「まさき CUP」を開催し、ジュニア世代の育成にも力を入れていきます。

施策 3　イメージアップ戦略第５弾 プロモーションビデオの作成・活用

町のイメージアップ戦略第５弾として、プロモーションビデオを作成し、町の魅力発信のために活用していきます。

ビデオは、町のイメージソング「まさき色の風」に合わせ、松前町の四季折々の風景、各種イベントの様子、特産品、史跡や公園など視聴者が町を訪れたくなるような魅力あふれる映像に仕上がる予定です。

完成後は、町の公式 YouTube で公開するほか、松山市のストリートビジョンで放映するなど効果的な活用を検討しています。